

2015年3月期第2四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2015年3月期第2四半期決算の業績について】

Q: 金融 IT ソリューションセグメントの第2四半期の営業利益率が、前年同期比で低下しているが、どのような要因か？

A: 第1四半期に発生した不採算案件2件が利益に貢献していないほか、4月から連結対象となったグループ会社の営業利益率が低いことなどによる。

Q: 産業 IT ソリューションセグメントの第2四半期の営業利益率が、前年同期比で大幅に改善しているが、どのような要因か？

A: 通信業をはじめとする顧客の案件拡大による増収で稼働率が上昇したことや、プロジェクト管理に努めシステム開発案件の採算性が改善したことによる。

Q: 第1四半期に発生した不採算案件3件の状況と見通しは？

A: 第1四半期に見直しをおこなって以降は、特に大きな変化はない。プロジェクト管理をしっかりとおこない、再発抑止に努めていく。

Q: 販管費は第1四半期には低い伸び（前年同期比1.2%増）であったが、第2四半期に大幅に増加（前年同期比17.0%増）している。どのような要因か？

A: 賞与引当金繰入が利益に連動するため、第1四半期は減益にともない減少したが、第2四半期は増益に転じた分増加した。第2四半期累計ではほぼ想定並みとなった。

Q: 受注高（7~9月）の増加要因は？

A: 産業 IT ソリューションセグメントにおいて通信業向けを中心に増加したほか、金融 IT ソリューションセグメントにおいて4月から連結対象となったグループ会社も寄与した。

Q: 外注費の増加要因は？外注単価の上昇も起因となっているのか？

A: 増収にともなう増加に加え、第1四半期に発生した不採算案件でも増加した。また、減価償却費を原価とする売上が減少し外注を活用するシステム開発などの売上が増えたという売上構成の変化も影響している。外注単価に大きな変化はない。

・本資料は、2015年3月期第2四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

【2015年3月期通期見通しについて】

Q：証券業の通期見通しを若干引き下げたが（前回予想差：△20億円）、どのような要因か？

A：上期の業績の状況をみてそれを反映させたというのが主な理由。期待した大型案件が受注できなかったというようなことではない。

Q：第2四半期の業績は好調にも関わらず下期は減収見通しであるが、どのような要因か？

A：前下期の増収が大きかったことの反動などがある。下期に向けて好調なトレンドが変わるということではない。

以上

・本資料は、2015年3月期第2四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。